

鳥取大学農学部附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター一年報
(第5号)

2011年版

'11 ANNUAL REPORTS
TOTTORI UNIVERSITY AVIAN ZOOZOSIS RESEARCH CENTER



鳥取大学農学部
附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター
AVIAN ZOOZOSIS RESEARCH CENTER
(AZRC)

目 次

1. ご挨拶	1
2. 人員構成と各研究部門における研究内容	2
(1) 病態学研究部門	2
(2) 疾病管理学研究部門	2
(3) 分子疫学研究部門	3
3. 研究活動	5
(1) 病態学研究部門	5
原著論文	5
総 説	6
学会発表	6
(2) 疾病管理学研究部門	8
著 書	8
原著論文	8
総 説	8
学会発表	9
(3) 分子疫学研究部門	9
著 書	9
原著論文	10
総 説	11
学会発表	11
4. その他の研究活動	13
(1) 国際共同研究・共同調査	13
5. 広報活動	13
(1) パンフレット等	13
(2) 講演等	13
(3) 新聞雑誌等掲載	16
(4) TV取材出演等	16
6. 社会貢献	17

1. ご挨拶

センター長 伊藤 壽啓

高病原性鳥インフルエンザの国内発生を受けて、2004年4月に本学に設立された鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター(Avian Zoonosis Research Center: AZRC)は今年、2期目の2年目を迎えております。今年度はウイルス学の専門家である曾田公輔氏を分子疫学研究部門の専任助教として迎え、スタッフ合計9名のフル体制で目標達成に向けて活動しております。

昨年も11月に高病原性鳥インフルエンザが島根県安来市の採卵養鶏場で発生したのを皮切りに、今年3月まで、合計9県24農場で本病の流行が報告されました。さらにその流行は養鶏場のみならず、国内の野生鳥類にも広がって、合計15種60例の野鳥の感染事例が次々と報告され、我が国で過去最大の流行となりました。

本センターは当初から農林水産省および環境省との連携のもと、疫学調査と防疫対応に貢献し、とくに昨年末の鹿児島県出水市のナベヅル(特別天然記念物)保護区における本病の発生の際にも環境省から委託を受け、確定診断や現地での疫学調査、防疫活動の指導等にスタッフ全員が正月休みを返上して協力致しました。また、本センターのスタッフが、農林水産省に設けられた疫学調査チームのメンバーとして現地調査に参加し、本病流行の感染要因究明にも貢献致しました。

一方、文部科学省の感染症研究国際ネットワーク推進プログラムにおきましても本センターは長崎大学熱帯医学研究所、京都産業大学鳥インフルエンザセンターとともにベトナムにおける共同疫学調査を実施しており、今後も国内のみならず、アジア地域における国際共同防疫体制の確立を目指して、更なる研究調査を実施して行く計画であります。引き続き皆様方のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2. 人員構成と各研究部門における研究内容

(1) 病態学研究部門

- ・野鳥の生息状況・飛翔路調査
- ・野鳥の病原体保有状況調査
- ・異種動物間伝播機序の研究

教授 山口 剛士（平成19年6月1日着任～現在）

「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」(海外研究拠点を活用した新規研究課題)における研究課題「ベトナムにおける鳥インフルエンザ侵淫実態調査と流行予測」に参加している。人獣共通感染症の伝播と拡散における野生鳥類の果たす役割について研究を行っている。

特任教授 小野 悦郎（平成17年4月～平成19年3月専任教授、平成19年4月～現在）

「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」(海外研究拠点を活用した新規研究課題)における研究課題「ベトナムにおける鳥インフルエンザ侵淫実態調査と流行予測」に業務主任者として参加している。また、鳥インフルエンザ抵抗性動物の開発研究を行っている。

講師 笛吹 達史（平成20年4月着任～平成22年3月助教、平成22年4月～現在）

インフルエンザウイルスについて、ウイルス感染動物における免疫誘導機構、鳥種・動物種による病原性の違いに関わる宿主要因をテーマに研究を行っている。鳥類から哺乳類への伝播機序の解明を目指す。また、ベトナムにおける鳥インフルエンザ侵淫実態調査と流行予測に参加。

(2) 疾病管理学研究部門

- ・病原性獲得変異の研究
- ・病原微生物の感受性研究
- ・新規抗微生物活性物質の研究

教授 村瀬 敏之（平成17年4月～平成18年3月助教、平成18年4月～現在）

「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」(海外研究拠点を活用した新規研究課題)における研究課題「ベトナムにおける鳥インフルエンザ侵淫実態調査と流行予測」に

分担研究者として参加している。また、鶏卵鶏肉を汚染するサルモネラの生態、病原性および薬剤感受性に関する調査研究を行っている。

特任教授 大槻 公一（平成17年4月～平成18年3月教授、センター長、平成18年4月～現在）

「新興・再興感染症に関する海外研究拠点形成プログラム」（文部科学省）により長崎大学熱帯医学研究所がベトナムに形成した拠点において、研究協力者として、同国の野鳥の鳥インフルエンザウイルス汚染状況を調査している。また、抗ウイルス性を持つ新素材「加工ドロマイト」の開発研究を行っている。

助教 尾崎 弘一（平成19年7月着任～現在）

高病原性鳥インフルエンザウイルスに対するワクチン開発を行っている。また、ウイルスタンパクに対する抗体を応用して CNT バイオセンサーの開発、広範囲なウイルス増殖抑制活性を持つ抗体の探索とその応用、分子レベルでの抑制メカニズムを追っている。

(3)分子疫学研究部門

- ・分子疫学情報のデータベース化
- ・遺伝情報交換ネットワークの構築

教授 伊藤 壽啓（平成17年4月～現在、平成18年4月～現在、センター長）

鳥由来人獣共通感染症としての鳥インフルエンザを主な研究対象として、人の新型インフルエンザウイルス出現予測のための宿主域制限因子の解明や、国内に飛来する渡り鳥を中心とした野鳥のウイルス保有状況調査、野生水禽由来インフルエンザウイルスの鶏に対する病原性獲得機構の解明等の研究を実施している。

准教授 伊藤 啓史（平成17年4月～現在）

鳥インフルエンザウイルスおよびニューカッスル病ウイルスの宿主域、病原性に関する研究を行っている。また、各種機関や企業との連携、共同研究により野鳥の鳥インフルエンザウイルス保有状況の調査や抗鳥インフルエンザウイルス素材、製品に関する研究を行っている。

専任助教 曾田 公輔（平成23年6月着任～現在）

高病原性鳥インフルエンザウイルスの各種野鳥および家禽に対する病原性とその疫学的意義を明らかにすると共に、インフルエンザウイルスの宿主である水禽からニワトリに

ウイルスが伝播するために関与する分子基盤の解明を試みている。また、ベトナムの家禽における鳥インフルエンザウイルスサーベイランスを継続的に行っている。

(平成24年3月31日現在)

3. 研究活動

(1) 病態学研究部門

原著論文

- 1) Said AWA, Usui T, Shinya K, Ono E, Ito T, Hikasa Y, Matsuu A, Takeuchi T, Sugiyama A, Nishii N, and Yamaguchi T: A sero-survey of subtype H3 influenza A virus infection in dogs and cats in Japan. *J Vet Med Sci*, 73(4), 541-544, 2011.
- 2) Said AWA, Kodani M, Usui T, Fujimoto Y, Ito T, and Yamaguchi T: Molecular changes associated with adaptation of equine influenza H3N8 virus in embryonated chicken eggs. *J Vet Med Sci*, 73, 545-548, 2011.
- 3) Narushima R, Horiuchi N, Usui T, Ogawa T, Takahashi T, Shimazaki T: Experimental infection of dogs with a feline endogenous retrovirus RD-114. *Acta Vet Scand*, 53: 3, 2011.
- 4) Uchida Y, Kanehira K., Mase M., Takemae N, Watanabe C, Usui T, Fujimoto Y, Ito T, Igarashi M, Ito K, Takada A, Sakoda Y, Okamatsu M, Yamamoto Y, Nakamura K, Kida H, Hiromoto Y, Tsuda T, Saito T: Genetic characterization and susceptibility on poultry and mammal of H7N6 subtype avian influenza virus isolated in Japan in 2009. *Vet Microbiol*, 147: 1-10, 2011.
- 5) Takakuwa H, Yamashiro T, Le QM, Phuong SL, Ozaki H, Tsunekuni R, Usui T, Ito H, Morimatsu M, Tomioka Y, Yamaguchi T, Ito T, Murase T, Ono E, and Otsuki K: Molecular epidemiology of avian influenza viruses circulating among healthy poultry flocks in farms in northern Vietnam. *Prev Vet Med*, 103, 192-200, 2012.
- 6) Yu MH, Kasem S, Yoshizaki N, Pagamjav O, Yamaguchi T, Ohya K, and Fukushi H: Functional characterization of EUL47 in productive replication, morphogenesis and infectivity of equine herpesvirus 1. *Virus Res*, 163, 310-319, 2012.

7) Sakoda Y, Ito H, Uchida Y, Okamatsu M, Yamamoto N, Soda K, Nomura N, Kuribayashi S, Shichinohe S, Sunden Y, Umemura T, Usui T, Ozaki H, Yamaguchi T, Murase T, Ito T, Saito T, Takada A, and Kida H: Reintroduction of H5N1 highly pathogenic avian influenza virus by migratory water birds, causing poultry outbreaks in the 2010-2011 winter season in Japan. *J Gen Virol*, 93, 541-550, 2012.

総 説

1) Fujimoto Y, Ito T, and Ono E: Incidences of H5N1 highly pathogenic avian influenza virus infections among wild birds in Japan. *Kyushu J Exp Anim*, 27, 3-10, 2011.

学会発表

1) Usui T, Ozaki K, Takakuwa H, Ozaki H, Ito H, Murase T, Otsuki K, Ito T, Yamaguchi T, and Ono E: Possible antiviral potential of soluble forms of Siglecs in influenza virus infection. 5th Annual Meeting Epizone, Apr. 2011, Arnhem, The Netherlands.

2) Takakuwa H, Yamashiro T, Le QM, Phuong SL, Ono E, Usui T, Tsunekuni R, Ito H, Ozaki H, Yamaguchi T, Ito T, Murase T, and Otsuki K: Molecular epidemiology of avian influenza viruses in wild birds in northern Vietnam during year 2006-2009. 5th Annual Meeting Epizone, Apr. 2011, Arnhem, The Netherlands.

3) 笛吹達史, 藤本佳万, 宇野有紀子, 伊藤啓史, 伊藤壽啓, 山口剛士: ウズラ由来 H7N6亜型鳥インフルエンザウイルスのウズラおよびニワトリ脳継代によるHA開裂部位へのアミノ酸挿入と脳内における増殖性の獲得. 第26回中国四国ウイルス研究会, 2011年6月, 徳島市.

4) 笛吹達史, 藤本佳万, 宇野有紀子, 伊藤啓史, 伊藤壽啓, 山口剛士: ウズラ由来低病原性H7N6亜型鳥インフルエンザウイルスのウズラ及び鶏脳継代によるHA開裂部位へのアミノ酸挿入と病原性の変化. 第152回日本獣医学会学術集会, 2011年9月, 堺市.

5) 曾田公輔, 伊藤啓史, 笛吹達史, 尾崎弘一, 山本直樹, 岡松正敏, 迫田義博, 喜田宏, 村瀬敏之, 山口剛士, 伊藤壽啓: オシドリ(Mandarin duck)からのH5N1高病原性鳥インフルエンザウイルスの分離および性状解析. 第152回日本獣医学会学術集会, 2011年9月, 堺市.

6) 岡松正敏, 伊藤啓史, 内田裕子, 迫田義博, 山本直樹, 曾田公輔, 笛吹達史, 尾崎弘一, 山口剛士, 村瀬敏之, 伊藤壽啓, 西藤岳彦, 喜田宏: 2010-2011年に日本で野鳥から分離されたH5N1亜型高病原性鳥インフルエンザウイルス. 第152回日本獣医学会学術集会, 2011年9月, 堺市.

7) Usui T, Fujimoto Y, Uno Y, Ito H, Ito T, and Yamaguchi T: Pathogenic potential of H7N6 subtype Avian Influenza Virus isolated from Quail. XV International Congress of Virology, Sep. 2011, Sapporo.

8) Hotta K, Usui T, Takakuwa H, Yamaguchi T, Le QM, Otsuki K, Ito T, and Yamashiro T: Pathogenic analysis of influenza virus H6N1 subtype circulating among poultry in Northern Vietnam. XV International Congress of Virology, Sep. 2011, Sapporo.

9) Chu TTH, Murano T, Uno Y, Usui T, and Yamaguchi T: Molecular Epidemiological Characterization of Poultry Red Mite, *Dermanyssus gallinae*, in Japan. The 8th International AFAS Joint Symposium between Japan and Korea, Nov. 2011, Yonago.

10) Uno Y, Usui T, Ito H, Ito T, and Yamaguchi T: Immune Response of Quails against H5N1 Highly Pathogenic Avian Influenza Virus Isolated in 2008 and 2010. The 8th International AFAS Joint Symposium between Japan and Korea, Nov. 2011, Yonago.

11) 笛吹達史, 藤本佳万, 加藤郁人, 宇野有紀子, 伊藤啓史, 伊藤壽啓, 山口剛士: ウズラ由来低病原性H7N6亜型鳥インフルエンザウイルスのウズラ及び鶏脳継代によるHA開裂部位への塩基性アミノ酸の挿入と病原性の変化. First Negative Strand Virus-Japan Symposium, 2012年1月, 長崎市.

12) 曾田公輔, 伊藤啓史, 笛吹達史, 尾崎弘一, 山本直樹, 岡松正敏, 迫田義博, 喜田宏, 村瀬敏之, 山口剛士, 伊藤壽啓: オシドリ (Mandarin duck) からのH5N1高病原性鳥インフルエンザウイルスの分離および性状解析. First Negative Strand Virus-Japan Symposium, 2012年1月, 長崎市.

13) 宇野有紀子, 笛吹達史, 伊藤啓史, 伊藤壽啓, 山口剛士: 日本国内で2008年と2010年に分離されたH5N1亜型高病原性鳥インフルエンザウイルス感染におけるウズラの病態. 第153回日本獣医学会学術集会, 2012年3月, さいたま市.

(2) 疾病管理学研究部門

著 書

1) 村瀬敏之: 細菌の栄養, 細菌の増殖, 細菌の同定. 獣医微生物学 第3版, pp.21-24, 見上 彪監修, 文永堂出版, 東京, 2011年.

原著論文

1) Ozaki H, Esaki H, Takemoto K, Ikeda A, Nakatani Y, Someya A, Hirayama N, and Murase T: Antimicrobial resistance in fecal *Escherichia coli* isolated from growing chickens on commercial broiler farms. *Vet Microbiol*, 150, 132-139, 2011.

2) Hotta K, Takakuwa H, Le QM, Phuong SL, Murase T, Ono E, Ito T, Otsuki K, and Yamashiro T: Isolation and characterization of H6N1 and H9N2 avian influenza viruses from Ducks in Hanoi, Vietnam. *Virus Res*, 163, 448-453, 2011.

総 説

1) 大槻公一: 高病原性鳥インフルエンザの現況とこれからの備え. *農業と経済*, 77(2), 79-88, 2011年.

2) 大槻公一: 日本各地で発生している高病原性鳥インフルエンザの現況. *鶏の研究*, 86(3), 15-20, 2011年.

- 3) 大槻公一: 講座 くらしと微生物5 マスク. *防菌防黴*, 39(3), 175-183, 2011 年.
- 4) 大槻公一: 講座 注目される感染症と制御対策7 鳥インフルエンザ. *防菌防黴*, 39(6), 375-387, 2011 年.
- 5) 大槻公一, 高桑弘樹, 常國良太, 井上瑞江, 藪田淑予: 2010 年晩秋から国内で多発した鳥インフルエンザ. *京産大先端科学技術研究所報*, 10, 45-61, 2011 年.
- 6) 大槻公一: 発生が止まらない鳥インフルエンザ. *SEEDer*, 5, 78-82, 2011 年.
- 7) 大槻公一: 鳥インフルエンザウイルスの生態. *東海畜産学会報*, 22, 2-6, 2011 年.
- 8) 大槻公一: 鳥インフルエンザの国内における発生. *養鶏の友*, 597, 12-18, 2011 年.
- 9) 大槻公一: オピニオン新型インフルエンザの話. *Agreeable 10 月号*, 1-2, 2011 年.
- 10) 大槻公一: 鳥インフルエンザの基礎と国内外の発生状況について. *日家禽会誌*, 48(秋期大会号), 1-4, 2011 年.

学会発表

- 1) 尾崎弘一, 中川恵理香, 梶江昭, 高田健次, 松岡保博, 村瀬敏之: 大腸菌症を発症したブロイラー由来大腸菌の薬剤感受性. 第 152 回日本獣医学会学術集会, 2011 年 9 月, 堺市.
- 2) 尾崎弘一, 米原恵子, 村瀬敏之: 大腸菌症に罹患した採卵鶏由来大腸菌の病原性の検討. 第 152 回日本獣医学会学術集会, 2011 年 9 月, 堺市.

(3)分子疫学研究部門

著 書

- 1) 伊藤壽啓: 高病原性鳥インフルエンザ／鳥インフルエンザ, *動物の感染症 第3版*, p.203, 明石博臣他, 近代出版, 東京, 2011 年.

2) 伊藤壽啓: 豚インフルエンザ. *動物の感染症 第3版*, pp.181-182, 明石博臣他, 近代出版, 東京. 2011年.

原著論文

1) Said AW, Yamaguchi T, Usui T, Shinya K, Ono E, Ito H, Hikasa Y, Matsuu A, Takeuchi T, Sugiyama A, Nishii N and Ito T: A Sero-survey of Influenza A virus infection in dogs and cats in Japan. *J Vet Med Sci*, 73(4), 541-544, 2011.

2) Said AW, Usui T, Shinya K, Ito T, and Yamaguchi T: Molecular changes associated with adaptation of equine influenza H3N8 virus in embryonated chicken eggs. *J Vet Med Sci*, 73(4), 545-548, 2011.

3) Horimoto T, Maeda K, Murakami S, Kiso M, Iwatsuki-Horimoto K, Sashika M, Ito T, Suzuki K, Yokoyama M, and Kawaoka Y: Highly pathogenic avian influenza virus infection in feral raccoons, Japan. *Emerg Infect Dis*, 17(4): 714-717, 2011.

4) Soda K, Cheng MC, Yoshida H, Endo M, Lee SH, Okamatsu M, Sakoda Y, and Kida H: A low pathogenic H5N2 influenza virus isolated in Taiwan acquired high pathogenicity by consecutive passages in chickens. *J Vet Med Sci*, 73, 767-772, 2011.

5) Watanabe C, Uchida Y, Ito H, Ito T, and Saito T: Host immune-related gene responses against highly pathogenic avian influenza virus infection in vitro differ among chicken cell lines established from different organs. *Vet Immunol Immunopathol*, 144(3-4), 187-199, 2011.

6) Takakuwa H, Yamashiro T, Le QM, Phuong SL, Ozaki H, Tsunekuni R, Usui T, Ito H, Morimatsu M, Tomioka Y, Yamaguchi T, Ito T, Murase T, Ono E, and Otsuki K: Molecular epidemiology of avian influenza viruses circulating among healthy poultry flocks in farms in northern Vietnam. *Prev Vet Med*, 103(2-3), 192-200, 2012.

7) Yamada S, Shinya K, Takada A, Ito T, Suzuki T, Suzuki Y, Le QM, Ebina M, Kasai N, Kida H, Horimoto T, Rivaller P, Chen LM, Donis RO, and Kawaoka Y: Adaptation of a duck influenza A virus in quail. *J Virol*, 86(3), 1411-1420, 2012.

8) Sakoda Y, Ito H, Uchida Y, Okamatsu M, Yamamoto N, Soda K, Nomura N, Kuribayashi S, Shichinohe S, Sunden Y, Umemura T, Usui H, Ozaki H, Yamaguchi T, Murase T, Ito T, Saito T, Takada A, and Kida H: Reintroduction of H5N1 highly pathogenic avian influenza virus by migratory water birds, causing poultry outbreaks in 2010-2011 winter season in Japan. *J Gen Virol*, 93, 541-550, 2012.

9) Tanaka M, Tsumura K, Ito H, Ito T, Ono E, Makino A, Kawaoka Y and Shinya K: Characteristics of influenza virus genome mutations. *Kobe J Med Sci*. 57: E116-127. 2012.

総 説

1) 伊藤壽啓: 野鳥の高病原性鳥インフルエンザウイルス感染症. *畜産技術*, 671,17-21, 2011年.

2) 伊藤壽啓: 動物インフルエンザの現状と対応. 特集・インフルエンザ—その現状と対応. *化療の領域*, 27(12), 35-40, 2011年.

学会発表

1) 曾田公輔, 伊藤啓史, 伊藤壽啓, 喜田 宏: 台湾のニワトリから分離された低病原性H5N2インフルエンザウイルスの病原性獲得. 第26回中国四国ウイルス研究会, 2011年6月, 徳島市.

2) 笛吹達史, 藤本佳万, 宇野由紀子, 伊藤啓史, 伊藤壽啓, 山口剛士: ウズラ由来H7N6亜型鳥インフルエンザウイルスのウズラおよびニワトリ脳継代によるHA開裂部位へのアミノ酸挿入と脳内における増殖性の獲得. 第26回中国四国ウイルス研究会, 2011年6月, 徳島市.

3) 曾田公輔, 伊藤啓史, 笛吹達史, 尾崎弘一, 山本直樹, 岡松正敏, 迫田義博, 喜田 宏, 村瀬敏之, 山口剛士, 伊藤壽啓: オシドリ (Mandarin duck) からの H5N1 高病原性鳥インフルエンザウイルスの分離および性状解析. 第 152 回日本獣医学会学術集会, 2011 年 9 月, 堺市.

4) 岡松正敏, 伊藤啓史, 内田裕子, 迫田義博, 山本直樹, 曾田公輔, 笛吹達史, 尾崎弘一, 山口剛士, 村瀬敏之, 伊藤壽啓, 西藤岳彦, 喜田 宏: 2010-2011 年に日本で野鳥から分離された H5N1 高病原性鳥インフルエンザウイルス. 第 152 回日本獣医学会学術集会, 2011 年 9 月, 堺市.

5) 伊藤啓史, 笛吹達史, 高瀬公三, 尾崎弘一, 曾田公輔, 市川利奈, 石戸里幸, 加藤郁人, 高桑弘樹, 大槻公一, 村瀬敏之, 迫田義博, 喜田 宏, 伊藤壽啓, 山口剛士: ナベヅル由来 H5N1 高病原性鳥インフルエンザウイルスの分離および性状解析. 第 152 回日本獣医学会学術集会, 2011 年 9 月, 堺市.

6) Usui T, Hotta K, Soda K, Takakuwa H, Le QM, Phuong SL, Ito H, Ozaki H, Tsunekuni R, Ono E, Murase T, Yamaguchi T, Otsuki K, Yamashiro T, and Ito T: Avian influenza virus surveillance in duck farms and live-bird markets in Northern Vietnam. Asia-Africa Research Forum 2012, Jan. 2012, Kobe.

7) Hotta K, Usui T, Takakuwa H, Yamaguchi T, Le QM, Otsuki K, Ito T, and Yamashiro Y: Pathogenic analysis of H6N1 influenza viruses isolated in northern Vietnam. Asia-Africa Research Forum 2012, Jan. 2012, Kobe.

8) Takakuwa H, Usui T, Hotta K, Le QM, Phuong SL, Tsunekuni R, Ozaki H, Ito H, Morimatsu M, Tomioka Y, Yamaguchi T, Ito T, Murase T, Ono E, Yamashiro T, and Otsuki K: Molecular epidemiology of avian influenza viruses circulating among healthy duck flocks in farms in northern Vietnam during year 2006-2010. Asia-Africa Research Forum 2012, Jan. 2012, Kobe.

9) 曾田公輔, 伊藤啓史, 笛吹達史, 尾崎弘一, 山本直樹, 岡松正敏, 迫田義博, 喜田宏, 村瀬敏之, 山口剛士, 伊藤壽啓: オシドリ (Mandarin duck) からの H5N1 高病原性鳥インフルエンザウイルスの分離および性状解析. First Negative Strand

Virus-Japan Symposium in Huis Ten Bosch, 2012年1月, 佐世保市.

10) 伊藤壽啓: 高病原性鳥インフルエンザの野鳥及び野生動物での発生状況について. 第153回日本獣医学会学術集会微生物分科会シンポジウム「高病原性鳥インフルエンザ流行」, 2012年3月, さいたま市.

11) 丸山隼輝, 曾田公輔, 岡松正敏, 迫田義博, 喜田 宏: カモから分離されたH7インフルエンザウイルスのニワトリに対する病原性獲得メカニズム. 第153回日本獣医学会学術集会, 2012年3月, さいたま市.

4. その他の研究活動

(1) 国際共同研究・共同調査

- 1) 学術交流協定締結(大韓民国国立動物検疫科学院) 平成16年～現在
- 2) 学術交流協定締結(大韓民国建国大学) 平成17年～現在
- 3) 科学技術振興費「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」インフルエンザコンソシアム「ベトナムにおけるワクチン導入後のH5N1高病原性鳥インフルエンザウイルスの抗原変異と流行動態に関する研究」ベトナム社会主義共和国, 平成22年～現在

5. 広報活動

(1) パンフレット等

鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター: パンフレット改訂版作成(平成23年7月)

(2) 講演等

- 1) 大槻公一: 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ防疫対策確立と感染症対策. P&C研究所講演会, 2011年4月28日, 京都市.
- 2) 大槻公一: 鳥インフルエンザの発生状況とその対策. 日本防菌防黴学会学術講演会2011, 2011年5月23日, 吹田市.

- 3) 大槻公一：高病原性鳥インフルエンザ発生に関する最新の知見について。『第2回京都府「高病原性鳥インフルエンザ」に係る防疫対策会議』, 2011年5月30日, 京都市.
- 4) 大槻公一：鳥インフルエンザの現状と対策. 平成23年度東海畜産学会シンポジウム, 2011年7月6日, 名古屋市.
- 5) 大槻公一：鳥インフルエンザの新たな状況への対応策について. 平成23年度・家禽学会秋季大会公開シンポジウム, 2011年8月24日, 十和田市.
- 6) 大槻公一：白鳥への給餌を考える～人と野鳥の関わり方と鳥インフルエンザの問題を通して. シンポジウム『白鳥への餌付けについて』, 2011年9月3日, 安曇野市.
- 7) 大槻公一：高病原性鳥インフルエンザの発生と侵入防止対策について. 平成23年度鶏病研究会山口県支部鶏病技術研修会 特別講演, 2011年9月20日, 山口市.
- 8) 大槻公一：鳥インフルエンザってどういう病気. 知って得 とり・たまごの集い, 2011年9月23日, 京都市.
- 9) 伊藤壽啓：野鳥における高病原性鳥インフルエンザウイルス疫学調査について. 第151回日本獣医学会学術集会特別企画日本野生動物医学会シンポジウム, 2011年9月, 堺市.
- 10) 大槻公一：鳥インフルエンザってどういう病気. 知って得 とり・たまごの集い, 2011年10月1日, 舞鶴市.
- 11) 大槻公一：発生が止まらない鳥インフルエンザについて. 平成23年度近畿地区鶏病技術研修会 特別講演, 2011年10月7日, 奈良市.
- 12) 大槻公一：野鳥における高病原性鳥インフルエンザの伝搬の仕組み. 平成23年度岐阜県獣医学術研修会(傷病野生鳥獣保護), 2011年10月11日, 岐阜市.
- 13) 大槻公一：鳥インフルエンザの最近の動向について. 平成23年度中国四国地区鶏病技術研修会 特別講演, 2011年10月14日, 高知市.

- 14) 大槻公一: インフルエンザから家族を守る. スズケン市民講座, 2011年10月15日, 大阪市.
- 15) 大槻公一: 農学教育のあらましと鳥インフルエンザに関する研究概要について. 平成23年度静岡県立静岡高等学校進路講演会, 2011年10月21日, 静岡市.
- 16) 大槻公一: 最近の鳥インフルエンザの動向と新型インフルエンザの現状. 日立特別講演会, 2011年10月28日, 京都市.
- 17) 大槻公一: 最近の鳥インフルエンザの動向と対策について. 大阪府と阪神地区感染症懇話会, 2011年11月7日, 大阪市.
- 18) 大槻公一: 最近の鳥インフルエンザの現状. 大阪府畜産会自衛防疫研修会, 2011年11月17日, 大阪市.
- 19) 大槻公一: 鳥インフルエンザについて. 平成23年度岡山県獣医公衆衛生講習会(中国地区), 2011年11月18日, 岡山市.
- 20) 大槻公一: 高病原性鳥インフルエンザの最近の動向. 兵庫県養鶏講習会, 2011年11月21日, 加西市.
- 21) 大槻公一: 高病原性鳥インフルエンザからの新型インフルエンザ出現の可能性と防疫対策について. 平成23年度滋賀県動物由来感染症対策研修会, 2011年11月24日, 大津市.
- 22) 大槻公一: 鳥インフルエンザウイルス拡大の原因考察について. 平成23年度日本ペストコントロール協会感染症指導者講習会, 2011年11月25日, 墨田区.
- 23) 大槻公一: 鳥インフルエンザの現状と対策. ピビオ研究会, 2011年12月1日, 文京区.
- 24) 大槻公一: アジア全域で流行が止まらない鳥インフルエンザの実態と今後の見通し. 千里ライフサイエンスフォーラム, 2011年12月15日, 豊中市.
- 25) 大槻公一: 鳥インフルエンザの防疫対策. 静岡県ペストコントロール協会

鳥インフルエンザ研修会, 2012年2月1日, 静岡市.

26) 伊藤壽啓: 日本での鳥インフルエンザの現状. 平成23年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会文部科学省科研費市民公開シンポジウム「感染症のグローバル化対策ー近隣諸国とどのように協力して対策を練るかー鳥インフルエンザの理解とグローバル化対策に向けて」, 2012年2月, 札幌市.

(3)新聞雑誌等掲載

H23. 4.21	鳥インフルエンザ関係	日本海, 読売
H23. 4.22	鳥インフルエンザ関係	山陰中央
H23. 5. 7	生肉食中毒 (鳥取大村瀬敏之教授)	読売
H23. 5.13	鳥インフルエンザ関係	日本海, 毎日, 読売, 産経
H23. 5.13	鳥インフルを野鳥から検出 米子と堺港で	朝日
H23. 5.17	【行政ファイル】 鳥インフルエンザ関係	毎日
H23. 5.20	漆喰いに「殺ウイルス」能力壁用建材で確認	毎日
H23.10.20	鳥インフルエンザ防止へ 生かせるか教訓〈上〉 (伊藤壽啓鳥取大教授)	山陰中央
H23. 4.21	鳥インフルエンザ関係	日本海, 山陰中央
H23.11.11	鳥インフルエンザ関係	毎日
H23.11.11	野鳥のインフル 県が監視を強化 松江でウイルス検出	朝日
H23.11.16	鳥インフルエンザ関係	朝日, 産経, 日本海, 山陰中央
H23.11.26	松江鳥インフル低病原性と確定	日本海, 読売
H24. 3.15	鳥インフルエンザ関係 (伊藤壽啓鳥取大学農学部教授)	山陰中央

(4)TV取材出演等

H23.11.11	鳥インフルエンザ関係	BSS, TSK
-----------	------------	----------

6. 社会貢献

伊藤壽啓: 平成 9 年度～現在 鳥取県公衆衛生協会理事

伊藤壽啓: 平成 19 年度～現在 農林水産省食料・農業・農村政策審議会家畜衛生部会家きん疾病小委員会委員長

伊藤壽啓: 平成 20 年度～現在 鳥取県防災危機管理委員会委員

伊藤壽啓: 平成 20 年度～現在 環境省第3回鳥インフルエンザ等野鳥に係る専門家グループ会合メンバー

伊藤壽啓: 平成 20 年度～現在 農林水産省委託プロジェクト「鳥インフルエンザ、BSE・口蹄疫等の効率的なリスク低減技術の開発」研究推進会議外部専門家

伊藤壽啓: 平成 21 年度～現在 農林水産省高病原性鳥インフルエンザ疫学調査チーム座長

伊藤壽啓: 平成 21 年度～現在 とっとり防災危機管理研究会メンバー

伊藤壽啓: 平成 21 年度～現在 鳥取県新型インフルエンザ対策本部会議顧問

伊藤壽啓: 平成 21 年度～現在 鳥取県環境衛生研究所研究評価委員

伊藤壽啓: 平成 22 年度～現在 鳥取県食の安全推進委員会委員長

伊藤壽啓: 平成 22 年度～現在 農林水産省動物用インフルエンザワクチン国内製造用株選定委員会委員

伊藤壽啓: 平成 23 年度 農林水産省食料・農業・農村政策審議会家畜衛生部会臨時委員

伊藤壽啓: 平成 23 年 8 月 農林水産省全国畜産技術研修会講師

山口剛士: 平成 20 年度～現在 鳥取県畜産技術業績発表会審査員

山口剛士: 平成 21 年度～現在 養鶏飼養環境改善推進事業に係るワクモ対策専門委員会委員

山口剛士: 平成 23 年度 日本獣医師会野生動物対策検討委員会副委員長

山口剛士: 平成 23 年度 鶏病研究会専門委員会委員

山口剛士：平成 23 年度 日本野生動物医学会感染症対策検討委員

山口剛士：平成 23 年度 鳥取県鳥インフルエンザ対策防災会議

山口剛士：平成 23 年度 環境省鳥インフルエンザ専門家グループ会合

村瀬敏之：平成 19 年度～現在 鶏病研究会専門委員

村瀬敏之：平成 20 年度～現在 鳥取県公衆衛生協会理事

村瀬敏之：平成 21 年度～現在 日本獣医学雑誌編集委員

村瀬敏之：平成 21 年度～現在 獣医事審議会試験部会専門委員

村瀬敏之：平成 22 年度～現在 抗菌性物質薬剤耐性菌評価情報整備事業委員

村瀬敏之：平成 23 年度 鳥取県生食肉に関する安全性調査会委員

大槻公一：平成 3 年度～現在 日本獣医学会 評議員, 編集委員長

大槻公一：平成 4 年度～現在 鳥取県食鳥肉衛生協会理事

大槻公一：平成 5 年度～現在 世界鶏病学会(World Veterinary Poultry Association) International Advisory Board, 日本支部長

大槻公一：平成 9 年度～現在 鶏病研究会 理事

大槻公一：平成 16 年度～現在 京都府高病原性鳥インフルエンザ対策専門家会議委員

大槻公一：平成 18 年度～現在 京都府・京都市新型インフルエンザ対策専門家会議委員

大槻公一：平成 18 年度～現在 京都府広域防疫対策センターに係る専門家チーム委員

大槻公一：平成 23 年度～現在 近畿ブロック家畜病性鑑定ネットワーク協議会委員

鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター：平成 20 年度～現在 環境省野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る検査

鳥取大学農学部附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター年報 第5号
(2011年版)

発 行 日 平成24年4月1日

編 集 ・ 発 行 国立大学法人鳥取大学農学部附属
鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター
〒680-8553
鳥取市湖山町南4丁目101番地
(代表者) センター長 伊藤 壽啓
Tel. & Fax. 0857-31-5437

印 刷 中央印刷株式会社
〒689-1121
鳥取市南栄町34番地
Tel. 0857-53-2221 Fax. 0857-53-2201
